

## 1. 略歴

- 1997年3月 東京大学文学部歴史文化学科西洋史学専修課程卒業  
2002年11月 ロンドン大学UCL 考古学研究所修士課程修了 学位取得 修士（文化遺産研究）  
2003年3月 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻修士課程修了 学位取得 修士（文化経営学）  
2004年5-7月 国連教育科学文化機関（ユネスコ）パリ本部文化セクター文化遺産部コンサルタント  
2005年6-8月 国連教育科学文化機関（ユネスコ）パリ本部文化セクター文化遺産部コンサルタント  
2009年10月 ロンドン大学UCL 考古学研究所博士課程修了 学位取得 博士（パブリックアーケオロジー）  
2010年9月 ロンドン大学UCL 考古学研究所名誉講師（Honorary Lecturer）  
2011年9月 セインズベリー日本藝術研究所学術アソシエイト（Academic Associate）  
2011年9月 イーストアングリア大学（University of East Anglia）世界美術・博物館学科（School of World Art Studies and Museology）准教授（Lecturer）  
2014年8月 イーストアングリア大学（University of East Anglia）芸術・メディア・アメリカ研究学科（School of Art, Media and American Studies）准教授（Lecturer）（組織再編）  
2015年1月 イーストアングリア大学高等教育実践準修士課程修了 学位取得 準修士（高等教育実践）  
2015年10月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

文化資源学（文化遺産研究）、パブリックアーケオロジー、博物館学

### b 研究課題

私の研究の根底にあるのは、人々にとって過去が何を意味するのかという問いにある。いかにも大仰な問いだが、この関心に導かれるかたちで、これまで人々が社会においてどのように過去をイメージし、理解し、使う（そして場合によっては「消費する」）のかをさまざまな角度から考察してきた。直接関連する分野としては、文化資源学、文化遺産研究、博物館学、物質文化研究、人文地理学などがあげられるが、おそらくあらゆる学問分野に何らかのかたちで関わりがあり、分野横断的に展開できるテーマではないかと思っている。これまでは考古学に関連する文化遺産を事例研究にすることが多く、その中でパブリックアーケオロジーという領域に強い関心をもってきた。現在は、天災に対する社会の記憶、そして古墳と地域住民の関係史というテーマにとりわけ注力している。東京大学本郷キャンパスという文化資源を魅力的にプレゼンテーションする方策にも興味をもっている。

### c 概要と自己評価

2015年10月に東京大学大学院人文社会系研究科に着任したばかりであるが、これから上に掲げた研究課題に取り組む所存である。

### d 主要業績

#### (1) 論文

松田陽、「史跡とならずに消えた名所一本郷の富士山」、『東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要 文化交流研究』、29、39-57頁、2016.3

## 3. 主な社会活動

#### (1) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

文化審議会文化政策部会、委員

ユネスコ記憶遺産選考委員会、委員

川崎市橋樹官衙遺跡群調査整備委員会整備部会、委員

世界考古学会議（World Archaeological Congress）、事務局長（Secretary）

文化資源学会、理事

オーストラリア研究評議会（Australian Research Council）、研究計画評価委員

学術雑誌 Public Archaeology、編集委員